

ふれあいリビング

足腰が弱くて、つい自分の家に閉じこもりがちになってしまう高齢者が増えています。入居者の高齢化が急速に進む中、このような支援を要する高齢者の安否確認や、高齢者がいつまでも元気に暮らしていくにはどのようにするかなど、さまざまな問題が現れてきています。

そんな中、家から近く、気さくに話ができる場所を作りたい。こんな思いをかなえるために作られたのが「ふれあいリビング」です。下新庄さくら園を皮切りに始まったこの試みは、今では19か所の府営住宅で実施され、それぞれ工夫が凝らされ、周辺の地域の方も訪れるなど活発に活動しています。

今回は、平成21年に「ふれあいリビング」を新設した住宅を紹介します。



藤井寺道明寺住宅 ふれあいリビング「たてづか」

地域の子供たちの笑い声があふれる楯塚古墳公園。そのすぐそばにある「たてづか」は暖かい光に包まれ、今日も高齢者の笑顔があふれています。

ふれあいリビングをきっかけに、住宅内の交流を深めていきたい。そんな思いは確実に実を結び、今では2~3日顔を見ないと声をかけてみるということです。

市の広報でも紹介され、市内のあちこちに口コミで広がっているこの取り組み。地域の方との交流も深まり、日々新たなふれあいが生まれてきているようです。



堺福田住宅 ふれあいリビング「ふくちゃん」

高齢者が普段からふれあえる場がほしい。そんな思いから生まれた「ふくちゃん」は今では高齢者の日常生活の一部となり、毎回訪れる方も多いということです。

ふれあいリビングに足を運ぶうちに、廊下で出会ったときに「見たことあるな」と思ったり、階段を下りるときに「〇〇さん元気かな？」と思ったり、今まであまり話したことのなかった方との交流も深まっているとのこと。スタッフも話を楽しみ、幅広い世代が一体となってふれあいの場を築いている「ふくちゃん」。いろいろな人と知り合えるというのが、盛況の秘訣となっているようです。



松原一津屋住宅 ふれあいリビング「ひまわり」

最初のうちはどうしても遠慮がちだった方も、回を重ねるごとに打ち解けていき、今では気さくにいろいろな話を楽しんでいる。ひまわりの花のように明るいふれあいリビングは笑い声で満ちあふれています。

高齢者世帯を訪問し、声をかけて手紙を届ける「ひまわり会」の活動。その中で生まれた「さらに交流の輪を広げていきたい」という思いが、ふれあいリビング「ひまわり」開設の原動力とのこと。社会福祉協議会とも連携し、月に一度の看護師による健康相談は大好評。このような新たな試みも、足を運んでみようと思うきっかけとなっているようです。



注) この記事は、2010年春号のふれあいだよりに掲載されたものです。
内容はすべて掲載当時のものです。